

# 知識は 旅をする

千葉県立東部図書館だより  
2009年12月

## 第32号



### 本を読む人シリーズ(31)

古今東西の本を読む人を紹介するシリーズです。

ルノアール「読書」(『ルノワール 陽とバラの肌』2007昭文社)

[72335/261]

## ■ トピックス

### ▼ 年末年始休館のお知らせ

12月28日(月)から1月4日(月)まで、休館します。

なお、休館中の資料の返却は、東部図書館正面入口左側にありますブックポストをご利用ください。

### ▼ 展示コーナー

1月16日(土)から4月15日(木)まで「日本の古典芸能 能・狂言・文楽・講談」に関連したテーマで所蔵資料を展示する予定です。

### ▼ 名作映画鑑賞会

毎月第3土曜日に、名作映画鑑賞会を開催しています。詳細は、裏面をご覧ください。

### ▼ のさか図書館オープン！！

11月25日(水)、匝瑳市野栄総合支所内に、のさか図書館がオープンしました。

約3万冊の資料を所蔵しており、入口わきの児童図書コーナーには、紙芝居を上演できるスペースや、親子、グループなどで読み聞かせのできる「おはなしのへや」があります。

また、附属施設として学習室、展示室、小ホールなどが設置されています。開館時間は9時から21時まで(日曜・祝日は17時まで)です。休館日は毎週月曜日、毎月第一木曜日です。詳しくは、図書館にお問い合わせください。(TEL 0479-80-6789)

ホームページURL

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/>

携帯電話サイトURL

<http://www.library.pref.chiba.lg.jp/m/>

携帯電話機のQRコードリーダーでアクセスできます→



「九十九里の文化・文学・町おこし」ー中西月華と仲間たちの明治・大正・昭和ー

11月28日(土)、当館研修室において文学講座を開催しました。当日は40名の参加があり、東京成徳大学人文学部日本伝統文化学科教授の鶴巻孝雄(つるまきたかお)氏をお迎えし、中西月華(明治6年12月30日～昭和26年2月26日)と徳富蘆花の交流を軸に、九十九里地方の文化的な活力について、資料紹介と楽しいエピソードを交えてお話いただきました。



### 1 中西月華との出会い

平成13年度、東京成徳大学の学内プロジェクトとして設立された「房総地域文化研究プロジェクト」の活動の中で、県内の絵はがきを集めていたところ、珍しいものをみつけた。

それは、「中西薬局写真部製作」などと記されており、美的な風景のものでなかった。調べてみるとその中西薬局の主人こそが今回のテーマである中西忠吉(月華)であった。

中西忠吉は旧片貝村の出身で、写真に巧みで、自分の撮った写真の発表の場として、絵はがきを作成したり、俳句を好み、自らを「月華」と号し、『やっさかご』などの句集を刊行したりした。多くの文人たちとの交遊もあり、徳富蘆花と交流があったことを知った。また、町おこしのために尽力した人物であることを知り、とても魅力を感じた。

### 2 文豪徳富蘆花の九十九里来訪

大正6年3月に『死の蔭に』を出版した蘆花は、死を脱出し、伊香保に遊ぶが、新たな戦闘力を獲得するため、荒海へ行きたい、禊(みそ)ぎをしたい、と九十九里行きを決意する。そこで、蘆花は以前から面識のあった月華に書簡を送り、九十九里訪問の手配を依頼し、7月の1ヶ月間を山武郡豊海村で過ごした。その間のサポートをしたのが月華である。このことは、翌年4月に刊行された『新春』の「九十九里」と題された中で詳しく描かれている。

### 3 片貝を中心にした諸活動

中西月華を中心に「暁声社」(明治36年)が結成され、続いて「無名会」(明治38年)、日露戦争後は「向上会」(明治39年)へと発展し、徳富蘇峰、内村鑑三などを招聘しての名士講演会、俳句を中心にした創作活動、勉強会、町おこし運動などを多彩に展開した。

明治43年、向上会は片貝海岸に無料休憩所を設置した。その他に新聞縦覧所の設置や水難者義援金の募集も行った。月華自らは国民新聞社通信員となって写真を送るなど、ジャーナリズムを利用したPRを行った。また、写真帳『片貝より』を刊行して東京方面の友人や知己に贈呈したり、観光客に個性的な絵はがきを販売するなどして、広く片貝海岸の紹介に努め、地元発展に貢献した。来年は片貝海岸に無料休憩所ができてちょうど百年になるので、これからも中西月華についていろいろと調査研究を進めていきたい。

#### 名作映画鑑賞会のご案内

毎月第3土曜日に、名作映画鑑賞会を開催しています。(入場無料)どうぞ足をお運びください。



開場：午後1時15分～ 映画上映：午後1時30分～  
場所：東部図書館3階 研修室

※来館又は電話でお申し込みください。

- ★ 12月19日(土) 『小公女』(1939年 アメリカ カラー 91分)  
監督：ウォルター・ラング／主演：シャーリー・テンプル
- ★ 1月16日(土) 『紅いコーリャン』(1987年 中国 カラー 91分)  
監督：チャン・イーモウ／主演：コン・リー
- ★ 2月20日(土) 『美女と野獣』(1946年 フランス モノクロ 93分)  
監督：ジャン・コクトー／主演：ジャン・マレー

**社会****子どもの貧困白書**

子どもの貧困白書編集委員会／編  
明石書店 2009 [3694-135]

先頃、厚労省は、日本の貧困率が15.7%、18歳未満の子どもの貧困率は14.2%と発表しました。中でも、1人親世帯の貧困率は54.3%と、大人が2人以上いる世帯の10.2%の5倍以上で、先進国では最悪レベルです。本書は、これまであまり見えていなかった「子どもの貧困」の現実について、子ども、若者、保護者、援助者、研究者等100名以上もの人たちが協同して、それぞれの立場から現状、課題、提言などを述べ、白書にまとめたものです。自己責任を押し付けるのではなく、社会全体で支えることの必要性を痛感します。

**文学****鬼のいる庭**

岡田 哲也／詩  
小林 重予／絵  
海鳥社 2009 [91156-行2]

往来葉書というものをご存知ですか。友人、恋人、家族など、2人の間で一枚の葉書が行き交い共同作業を楽しむ郵便のことです。

「鬼のいる庭」では小林重予さんの秘密めいた少女のような絵やコラージュに、気持ちの深いある岡田哲也さんの詩が添えられています。2人の間を何度も葉書が往来して、価値ある作品が出来上がっていくのです。メールや電話もいいものですが、たまには葉書も良いと思わせてくれるオススメの一冊です。

**人文****大人の時間はなぜ短いのか**

一川 誠／著  
集英社 2008 [14127-12]

—大人になると子どもの頃より時間が経つのが早く感じられる— 多くの人がこんな印象を持っていることでしょう。

理由は、『大人の1年は子どもの1年より短く感じられる＝年齢に対する比が小さいほど時間が短く感じられる？』これは真実??

本書は“時間”という概念が何に基づいているかを哲学、心理学を始め様々な視点から着目し、この疑問を解き明かしています。これを読むと、これからの時間の感じ方、使い方が変わるかもしれません。

図書館ぶらり散歩(28)

**おすすめの本**

～最近の新作資料から～

**芸術****石を聞く肖像**

木之下 晃／著  
飛鳥新社 2009 [7628-39]

手のひらにのる白い楕円の石。

本書は、音楽家、演出家等芸術の分野で活躍する200人に、この石を見て感じたことを自由に表現してもらい、撮影した肖像写真集です。

指揮者のクラウディオ・アバドを筆頭に、被写体はいずれも錚々たる芸術家たち。大家ならではの感性とともに、生真面目さ、無邪気さ、はにかみ等舞台上の姿からは窺うことができない一面までもこの石は引き出し、その一瞬をカメラが捉えています。

※[ ]内は資料の請求記号です。

## 漁業の町から歴史発見

JR銚子駅から、一両編成のレトロな電車「銚子電鉄」(通称銚電)にゆられ、キャベツ畑の広がる中をゆったり進み、20分ほどで終点の外川駅に到着します。電車から降りると、潮の香りたけよう“漣つくし”の町、外川です。その外川

駅から徒歩1分のところに「外川ミニ郷土資料館」があります。

開館は、平成19年3

月。400年にせまる外川の歴史と文化の継承と町のすばらしさを伝えたいという思いから、島田泰枝さん政典さん親子がこのミニ郷土資料館を開館しました。

資料館に足を踏み入れますと、正面に大きな大漁旗があり、来館者を迎えてくれます。そして、昔の漁師さんたちが漁の際に使ったいろいろな道具が目飛び込んできます。

「こんにちは」と声をかけますと、中から館長の島田泰枝さんが迎えてくださり、外川の町や隣接する高神の町の様子や歴史をお話しくさいます。

館内をめぐると、漁に使った様々な道具や漁師の晴れ着“万祝”、貝の標本等々が展示されています。

資料館には“案内人”もいらっしやり、銚子弁を交えて外川の歴史や展示品について説明してくれます。(事前に連絡が必要です。)



### ～外川ミニ郷土資料館～

また、外川の町は昔の面影がたくさん残っています。

外川漁港に面した南斜面には、港へ通じるたくさんの坂道があり、坂道の町とも言えます。その

坂道一つ一つに歴史や由来のある名前も付いています。名前を探しながら近くを散策してみるのも良いと思います。

また、外川は東に朝日の昇るのを見、西には屏風ヶ浦に沈む夕日を見ることができます。

この「朝日と夕日の中間の町外川」にあるミニ郷土資料館が、外川や銚子の歴史を知る情報の発信地となってほしい」という館長さんの思いの伝わる温かい資料館です。

◆所在地 銚子市外川町2丁目10610  
(Tel 0479-22-0575)

◆開館時間 午前10時30分～午後3時30分

◆休館日 火曜日(但し、祝祭日は開館)

◆入館料 無料  
※駐車場がありません。  
※案内・予約等は銚子市観光協会でも受け付けます。  
(TEL 0479-22-1554)

- 県立図書館の資料は、市町村立図書館などを通じて利用することもできます。お近くの図書館、あるいは公民館図書室等の読書施設にご相談ください。
- 県立図書館では、千葉県に関する資料を収集しています。グループ・職場などで資料を発行されたときには、情報をお寄せください。

編集長の独り言・・・

新型インフルエンザの感染が全国的に広がっています。予防には人ごみを避け、手洗いうがいをすることと食事や睡眠をしっかりとることだそうです。

今年も残り僅かになってきました。健康に留意して、充実した日々をお過ごしください。

編集・発行：千葉県立東部図書館

〒289-2521 千葉県旭市ハの349

TEL 0479-62-7070

FAX 0479-62-7466

URL : <http://www.library.pref.chiba.lg.jp>